

ゲストスピーカー講演会@『知覚心理学』（北岡）の授業内
2018年10月26日（金）4限（14:40～16:10）
立命館大学大阪いばらきキャンパス A棟2階 AN211教室

正しい (Veridical な) 知覚の数理・計算機的な研究と錯視の関係

モスクワ経済高等学院(НИУ ВШЭ)助教授

Tadamasa Sawada 先生

日常生活において周囲を見渡して、物体の形状やそれらの位置を大きく間違えて知覚することは稀であり、その点において視覚は正確 (veridical) であると言える。その一方で、多くの心理物理研究が視覚の不正確さ (non-veridical) と不安定さを報告している。それらの幾つかは、「錯覚」として知られている。このような相反する現象が日常生活と研究室で生じる理由を、特に3次元の形状や空間の知覚に基づいて、この講義では議論する。正確な知覚と不正確な知覚の差は、実験刺激、特に遠刺激の特性で説明できる。例えば、3次元の形状が鏡面对称、表面の最小化、圧縮 (compactness) 最大化などの制約を満たす場合は、安定して正確な形状が知覚される。一方で、このような制約を満たさない形状に関しては、この限りではない。このような考えに基づいて、過去の幾つかの重要な研究についても再評価を行う。

